

謎の文書『ホツマツタエ』

絵文字の登場

「ホツマツタエ」(漢字で書くと「秀真伝」)は、昭和41年(1966)、東京の古書店で、写本の一部が発見されました。その後、市内で確認された「ホツマツタエ」は、五七調の和歌形式のホツマ文字とその漢訳を併記する形でつづられており、市内の地名にまつわる逸話が多く登場します。

また、使われている「ホツマ文字」は「神代文字」ともいわれ、ひらがな



ホツマ文字と漢字

のような一音一字の表意文字で、母音のアイウエオと子音のアカサタナハマヤラワに対応した図形があり、その組み合わせで表現される不思議な絵文字です。漢字が日本に入ってくる前に使われていた文字ともいわれますが、実際にいつ頃から使われていたかは不明で、学術的には認められていません。

高島市との関わり

平成4年(1992)、安曇川町西万木の日吉神社の神輿蔵に置かれていた木箱の中から「秀真政伝紀」と書かれた「天・地・人」の桐箱入り3箱、全40章の冊子が見つかりました。その第1章の冒頭に書かれた「自序」によると、この冊子は安永4年(1775)に和仁古容聡という人物が、神話の時代のことが書かれた家伝の本を自ら解読して、30年余りをかけて漢訳したもので、これを宮中に奉呈しようとしたとされています。

作者の和仁古容聡は、大正15年(1926)に書かれた『高島郡誌』の例言によると、本名は井保勇之進という修験者で、郡内の複数の神社の由緒を書き記した人物であるとされています。また、三尾神社の神官であった野々村立蔵が書き写した「ミカサフミ」(フトマニ)もこの高島から発見されています。

閩文化財課 ☎(25)8559



秀真政伝紀(日吉神社所蔵)

編集 雑感

いよいよ夏本番、暑さが厳しい季節となりました。皆さん、熱中症対策は万全ですか?最近では冷却タオルや携帯扇風機、塩分補給タブレット、ネッククーラーなど便利なグッズもあります。こまめな水分補給とあわせてうまく活用して、暑さに負けず元気に夏を過ごしましょう!(S)



日吉神社(安曇川町西万木)



広報たかしま

令和7年

8

月号

No.307

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
〒160-8502 滋賀県高島市新旭町北畑5-10番地

☎0740(25)8000(代)
https://www.city.takashima.lg.jp
t:info@city.takashima.lg.jp